



【学校教育目標】

知・徳・体のバランスの取れた人  
間性豊かな生徒の育成

【4つの伝統】

あいさつ・歌声・清掃・ボランティア

【目指す生徒像】

- ☆思いやりのある生徒
- ☆自ら学び、自ら考え、自ら行動する生徒
- ☆やり遂げる力を持った、たくましい生徒
- ☆自校を愛し、郷土を愛し、その発展に尽くす生徒

## ふるさと教育の推進

校長 矢部智史

新緑の美しさが際立つ季節となりました。少し前まではハナミズキが春の装いを彩り、見る人の心に元気を与えてくれましたが、季節の移ろいはゆっくりと、しかし確実に進んでいきます。自分自身の成長もこうあってほしいと思うのですが、人の成長、なかなかそうは行きません。

さて、今年度から第四次川越市教育振興基本計画がスタートし、今後5年間で計画期間として9つの施策を柱とし、学校教育が展開されます。「ふるさと学習」の推進もその一つです。地域の歴史や文化の担い手として、郷土に愛情と誇りを持つ子供たちを育成しようという機運が市内小中学校でも高まっています。ここ福原中においても、総合的な学習の時間や様々な行事を通して「地域愛」と呼べる感情を高めつつ、地域の魅力を再発見したり情報発信したりする生徒を育てていきたいと思えます。

ところで、みなさんには「故郷」と呼べる地域がありますか？私は、川越市西小仙波に生まれ、4歳の時に今住んでいる川島町へ引っ越しました。私の大部分を形作っているのは「川島町」ですので、出身は？と聞かれると見栄を張って「川越です！」と答えていた時期も正直ありましたが、内心では「川島町」と思っています。そんな私ですが、川島町には人並ならぬ郷土愛を持っていると自負しております。



今から5年ほど前、犬を連れてほとんど人の通らない自宅から少し離れた未舗装の田舎道を歩いていました。輪立ちの部分だけ草が生えておらず、道の中央と道の両脇にだけ草が生い茂っていました。道の中央部の草むらに、大きなどんぐりがたくさん落ちていたので、子供の頃はよく拾っていたなと思い、何となく眺めていたのですが、その中に1つだけ異様に大きい木の実を見つけました。半分土に埋もれたアーモンド型のそれを掘り起こすと、その表面に「SATOSHI YABE」という文字が刻まれていました。何とそれは、私が小学2～3年生頃、当時通学路として歩いていたその道でランドセルから落ちてしまったキーホルダーでした。無くした時、泣きながら必死で学校までの通学路を何度も捜し歩いた記憶が鮮明によみがえってきました。奇跡的な発見にびっくりしたのと同時に、この場所が50年近く何も変わっていないという証が嬉しくて、住めば本当に「陸の孤島」で、今時電車もバスも通っていない不便な土地ですが、ずっとこのままであってほしいなあという思いを強く感じました。余りにも浅はかな感情ですが、これも一つの郷土愛なのでしょうか。それから、私の住んでいる「出丸（でまる）」という地名も変な響きで嫌いでしたが、地域の歴史を紐解いてみると誇りに思える意味の深い名称であることが分かります。

川越は歴史的にも文化的にも魅力あふれる地方都市です。この街に誇りを持ち、将来住み続けたいと考える魅力を、ぜひ日々の生活や学校の学習、他の地域との比較の中で探してほしいと思えます。また、文化の継承だけでなく、未来に向けていかに自分たちの手で発展させていくかも模索できると良いと感じます。

50年後、100年後の川越、福原地区はどのような街になっているのでしょうか。とても楽しみです。